

特集●荒川流域を知る (3)

【水道の水～秋ヶ瀬取水堰にて～】

当たり前のように、蛇口をひねればほとぼしる水道の水。この“都市の水”について語ることは意外に難しい。

“自然の水”は循環してある無限の資源。水は常にどこかにはある。しかし偏ってある水も一時的にある水も、約束されていつもある“都市の水”にはなれない。

“緑のダム”が私たちの蛇口の水になれないわけはそれ。

秋ヶ瀬取水堰の水は自然の水を都市の水に換え、一つ一つ集めた水だった。

秋ヶ瀬の水の前後を追った。

水を見に行く (2)

【ローマの水・水の公園を散策】

「ローマの水」第二弾。

前回の取材で見逃した水源地ペスキエラの洞窟見学と古代～現代の水道を同時に見ることができるといふ施設見学は、今なおテロ対策でいずれも立ち入り禁止。取材不可となった。

もう一つ、“イタリアの総合水法（ガリ法）を学ぶ”は水法の権威三本木健治先生を大学の研究室にお訪ねしたが、法律のなんと難しそうなこと。歴史・国情・自然環境等の理解なしには無理。私たちは簡単に降参して、とりあえず現状視察に切り替え、流域単位に水を管理する機関「テヴェレ川流域管理公社」を取材することにした。

取材日は6月6日。前日はのん気を決めこんでローマ郊外のティヴォリ散策に充てた。ここには噴水の公園ヴィラ・デステ、「カノプス」で知られるヴィア・アドリアーナがある。

【私たち小作農から始めました。その一】

このままではいつか「見沼田んぼ」が消えてしまう。田んぼがなくなれば田を潤す水は不要になり、利根川と見沼田んぼをつないできた「見沼代用水」60kmの水の流れも失う。

宅地が増え、残土の山が増え、荒地が増え、対策で増えるものは“水と緑”の公園・緑地ばかり。水辺と芝生と駐車場の都市公園、洪水を調節する遊水池。みんな都市施設だ。

首都圏 20～30km の地に、農地、それも田んぼの保全是無理なのだろうか。地形的にはそれが一番自然なのだが。